

5歳児クラス <5月 富嶽三十六景「神奈川冲浪裏」>



やさしいK-ART

テーマ《神奈川冲浪裏ワーク》

にほん ちつし
日本で最も知られた浮世絵師、葛飾北斎。
ゴッホやモネにも影響を及ぼしました。
今回は空の色にこだわりました！

<テーマを決める>

日本のお金に描かれている絵ってどんな絵だろう・・・。

10,000円札の裏は、現在は東京駅、5,000円札は藤の花、1,000円札の裏には浮世絵。

この1,000円札に描かれている富嶽三十六景「神奈川冲浪裏」は、「世界で最も有名な絵」と言われるくらい有名で、誰もが知っている葛飾北斎の作品です。

この作品は「静と動」のコントラストで自然の雄大さを描いていると言われます。そのため、遠くに小さくてもどしっと構えている富士山、そして手前に荒々しい波、船と人があることで遠近法で動きのある波はさらに激しく、遠くの富士山はいつも変わらず静かに感じます。

<問いを考える>

○構図に関する問い

「今のお札に描かれている絵って知ってる？」

「この絵は見たことある？」「この絵を見て感じることは何かな？」

「お札以外でどこで見たかな？」

「細かく見ると何が描かれているかな？」「この小さいものは？」「波の形はどう感じる？」

1. キャンバスボード 1 枚
2. 波パーツ 1 枚
3. タイトルパーツ 1 枚
4. 見本 1 枚
5. キットパス (ベージュ、グレー、白)
6. オレンジカップ (水大さじ 1 程度)
7. 筆
8. ベビーパウダー
9. ボンド



<環境をデザインする>

「作品の一部を担うことで作品作りを通じて興味を持たせる」

子どもたちがこの作品を 1 から全て描いて完成させることは至難の業です。しかし、限られた時間の中で、一部を担うことで作品に興味を持ち、しっかりと観察をして、作品を完成させていくための材料を準備します。今回は「空」の色付けを担い、波や富士山がより際立つようにキットパスで塗っていきます。

「波と富士山と船と人」という細かい部分は貼る。

今回はハサミは使えないので、あらかじめ切っておいたパーツを貼って作品を完成させます。

5歳児クラス <5月 富嶽三十六景「神奈川冲浪裏」> 実施報告



5/27 年長：《葛飾北斎：神奈川冲浪裏》

見本を見せると「わあ〜！」という歓声と「出来るかな…」とドキドキした様子。

「波は大きいのに、なぜ富士山は小さいの？」という問いには「遠くにあるから！」とすぐに反応があり、遠くのものは小さく、近くのもの大きく見える「遠近法」についても、自然と感じ取っている様子でした。また、激しい動きの大きな波と、静かに構える富士山の対比についても真剣に聞いていました。

制作では、キットパスを側面塗りしたあと、筆に水をつけて横方向に伸ばす技法に挑戦。ポイントをしっかりと押さえながら、すごく集中して丁寧に筆を動かしていました。波の白い部分や富士山の雪を塗り、見本をよく見て雲や波しぶきも描き込み、それぞれ迫力ある作品に仕上がりました。完成した自分の作品を見て「早く持って帰りたいなあ」と満足気。作品を並べた際に「僕が描いたものはすぐわかるよ！」「僕のはこれだよ！」と自分の作品をととても気に入っている様子が見られました。